

日中福祉交流コーディネーターが見る 上海福祉の今

日中福祉プランニング代表 王 青



中国上海市出身。大阪市立大学経済学部卒業後、アジア太平洋トレードセンター（ATC）入社。大阪市、朝日新聞、ATCの3社で設立した福祉関係の常設展示場「高齢者総合生活提案館ATCエイジレスセンター」に所属し、広く「福祉」に関わる。2002年からフリー。上海市民政局や上海市障がい者連合会をはじめ、政府機関や民間企業関係者などの幅広い人脈を活かしながら、市場調査・現地視察・人材研修・事業マッチング・取材対応など、両国を結ぶ介護福祉コーディネーターとして活動中。2017年「日中認知症ケア交流プロジェクト」がトヨタ財団国際助成事業に採択。NHKの中国高齢社会特集番組にも制作協力として携わった。

新型コロナウイルス感染の勢いが止まらない。感染者や死亡者が日を追うごとに増加している。

上海や北京などの政府機関は1月下旬より、先行して高齢者介護施設の封鎖を通過し、他の都市もそれに続いた。

「封鎖」とは、家族を含む入居者以外の施設への入出を禁じられ、さらには入居者の外出も禁じられることである。

そして各地域では、「非常時の介護施設出入管理告知」が発表された。内容は次の通りである。

○不要不急の面会は家族を含め禁止

介護施設封鎖／スタッフ日々奮闘



▲ビデオ通話で家族との会話を楽しむ入居者

十分、敷地内の庭や玄関前で外の空気を吸う時間を設け、なるべく外出を控えてもらう。そして、政府は「非常時の施設内に対応する指針」や「感染防止対策」を矢継ぎ早に出した。

1月25日からは、中国のお正月（春節）だ。通常、その前から帰省し、家族団らんの時間を過ごす。一部の入居者は早期に帰省できたが、ほとんどが家族との対面が叶わなかった。

中国の介護施設の入居者は、家族が面会にきてくれるかどうかを常に気にしている。家族の訪問に人手不足問題が深刻と

は、1年間の仕事への糧を流す人も少なくない。入居者を一番気遣っているのは介護スタッフだ。春節前に帰省した一部のスタッフは、移動が規制されていて、まだ現場に戻れておらず、さらに人手不足問題が深刻と

は、1年間の仕事への糧を流す人も少なくない。入居者を一番気遣っているのは介護スタッフだ。春節前に帰省した一部のスタッフは、移動が規制されていて、まだ現場に戻れておらず、さらに人手不足問題が深刻と

は、1年間の仕事への糧を流す人も少なくない。入居者を一番気遣っているのは介護スタッフだ。春節前に帰省した一部のスタッフは、移動が規制されていて、まだ現場に戻れておらず、さらに人手不足問題が深刻と

○武漢など多発区域に行った人やその人に近い人および風邪・発熱・咳の症状のある人の出入りを禁止

○施設に入る人は、マスクの着用、手洗い・消毒を義務付け。出入りができるのは公共スペースまで

一方入居者にも一日数

の時間を過ごすこと